

2021年度シュタイナー学園学校評価

シュタイナー学園初等部・中等部・高等部では、2021年度の教育活動につきまして、以下のように評価いたしました。

コロナ禍における特別な教育目標【1.コロナ・ミッション・ステートメント】と通常の教育目標【2.シュタイナー学園学校評価教育目標】の二部構成になっており、それぞれ教職員による自己評価と学校関係者による評価の抜粋をここに掲げました。

【1.コロナ・ミッション・ステートメント】

評価目標	教職員による自己評価		学校関係者評価
全体目標	高等部総括	初中等部総括	保護者評価（抜粋）
<p>■全体</p> <p>1) 教育に関して 「子どもたちが明るく健康でいられるための非常時におけるシュタイナー教育を推進する」:</p> <p>2) 児童・生徒に関して 「こどもたちが孤立・不安を感じることはない工夫」: 児童・生徒が孤立・不安を感じることのないように工夫し、担任・学校への信頼を失わず、クラスとの繋がりを感じられるようにする。</p> <p>3) 保護者に関して 「保護者との精神的な繋がりを失わないようにする」: 教師・保護者相互間において丁寧で密な連絡を取り、保護者が学校に対し精神的疎遠を感じないように心掛ける。</p>	<p>■高等部</p> <p>1～2学期は社会全体の感染者数も落ち着いており、ほぼ通常の時間割で教育活動を行なうことができた。昨年度実施できなかった実習も含め、多くの実習を行なうことができた。</p> <p>2022年1月後半から感染力の強いオミクロン株による第六波が来て、生徒の中にも陽性者や濃厚接触者が出た。看護師資格を持つ養護教員や校医ら、充実した保健チームの活動により、変動の多い社会情勢の中、教職員のPCR検査を実施したり、情報を適宜更新したりしながら落ち着いて過ごすことができた。</p>	<p>■初中等部</p> <p>昨年度の感染下における学校運営の経験と文科省や神奈川県からの通知「学校における新型コロナウイルス感染症対策」に基づき、通常授業が滞ることがないレベルでの工夫、努力が行われた。しかしながら、実施できなかった校外学習、発表の時期や形を変更せざるを得ない活動なども少なくなかった。</p> <p>授業内での感染防止対策、消毒作業等、子どもたちへの細心の注意と様々な努力の上、感染対策を行ってきたが、残念ながら2022年1月後半から月末にかけて児童の感染発症により複数学級(1, 2, 3, 4, 6年)の閉鎖実施を行った。学級閉鎖をネガティブに受け止めるのではなく、さらなる感染を食い止めるための、より積極的な感染対策として考えた。感染対策を講じたがクラス内感染を止められなかった事実は真摯に受け止め、反省と共に問題点を振り返り、今後に向けて更なる対策を考慮していきたい。</p>	<p>●コロナ禍の中、子どもの安全面に軸足を置きながらも、この教育が目指す理想の実践のために『今できる最善』を尽くしていただきました。心より感謝しております。</p> <p>●難しい意思決定と日々の対応 学校運営については、日々状況が変わる中、正反対ともいえる多様な意見が寄せられていたと思います。正解のない中、授業はもとより、学校行事、登下校の方法、自宅学習のあり方など議論に議論を重ねて意思決定していただいたことと思います。</p> <p>また日々の検温・消毒、予備マスクの管理や消毒液の補充、手洗いの指導や時間差下校の管理、駐車場の交通整理、密にならない工夫、ZOOM用のカメラや配信の準備、自治体からの通達を読み込むこと、熱中症とのバランスなどなど、地味で地道な数々の業務。おそらくこれらはほんの一部だと思いますが、丁寧に対応していただきました。</p> <p>●安心 世間でこれだけ不安が煽られている中、子どもが不安を口にすることなく、登校できたことは、普通の先生への信頼感の賜物だと思います。</p> <p>また、感染に関する「フローチャート」は大変役に立ち、いざという時に、すぐに使うことができ、非常に有益でありがたかったです。</p> <p>●保健チームの対応 校医や保健チームとともに教職員の皆さんが力を合わせて感染防止対策を考えて実施しくださりありがとうございます。コロナ禍において、対策を施したりやり方を変えたりしてできる形で教育が行われていることに感謝しています。</p> <p>学内感染については、想定外に必ずおきることなので、防げないことは学校の責任ではないと思います。それよりも感染した場合を想定して、さまざまなプランを事前に検討していただいたことが、うかがわれました。</p>
<p>■全体の1)</p> <p>(1)教育に関しての評価 ・リズムある生活と芸術的要素を考慮した児童・生徒の肉体・精神的健康の安定に配慮する。 ・学びの意欲と好奇心を満たす。 ・受け身ではなく、自分ができる家庭・地域・社会への貢献を考え行動するのを助ける。</p> <p>・高等部は心身の健康とバランスをケアしながら必要に応じ、遠隔授業を実施している。</p>	<p>■高等部</p> <p>神奈川県からの通知を確認しながら、感染対策を行なった。家族に感染者や濃厚接触者が出た場合のフローチャートを作成し、都度更新しながらそれにしがって健康観察をし、なるべく対面での授業ができるように考えた。通常の学園祭を計画し、丁寧に進めたが、コロナウィルスの状況で外部のお客様をお招きすることを見合わせ、学内だけで行なうことに決めた。その後さらに状況が厳しくなったため、高等部生だけのフェスという形で生徒の楽しめる機会とした。このように、コロナ禍においても、行事や校外学習、実習などは、縮小や創意工夫をして、実施できる形で行なった。実習に関しては、受け入れてくださる施設が思いのほか多く、ありがたかった。</p>	<p>■初中等部</p> <p>学校でも家庭でもリズムある生活が保てるように保護者と面談を行い、電話で話すなどし、連携を心掛けた。校医、保健チームとともに、感染防止や安全対策を考慮したうえで、どのように芸術的要素を取り入れながら授業を生き生きさせられるかを模索し、子どもたちに精神的安定を目指した。</p>	<p>子どもたちはコロナ前と変わらず、普段どおり学園がきで通学していました。子どもたちの柔軟さや軽やかさには大人が学ぶべきところもあったと思います。</p> <p>そのような子どもに導いていただき、感謝申しあげます。ありがとうございました。</p> <p>非常時でもシュタイナー教育の学びが滞らないような仕組みを考え、できる範囲で実行して下さった。こまめな電話連絡なども、思春期になればなるほど必要だと感じる。</p> <p>●行事の催行努力について 行事を中止するのではなく、生徒が楽しめることを中心に小規模でも催行したことは良かった。行動制限のある中でも、できることをできる形で実施でき、また、児童生徒も状況変化に浮わつかず、対応できていたのも、メディアと距離を置き、学校で落ち着いて生活するシュタイナー教育のおかげだと思う。</p> <p>●デジタル運用 対面・体験を軸とするこの教育としては、相反する面がある中、最善な範囲で教育を実践していただいたと思います。ある意味苦渋の決断でもあったと思いますが、罹患のリスクを低減でき、心理的安全性も確保されました。</p> <p>また、ZOOMの活用など、この学園の歴史上、画期的な運用をしていただいたと思います。まさに「今できる最善」をしていただきましたし、前向きに考えれば、この学園に不足しがちなデジタルコミュニケーションや身体及ぼす負担と適切な扱い方など、メリット・デメリットについて保護者も向き合う良いきっかけになったと捉えることができると思います。</p> <p>デジタルだけではなく授業の実現に向けた先生方の暖かさや熱意を子どもも受け取っておりました。</p>

<p>■全体の2)</p> <p>2) 児童・生徒への対応に関する評価</p> <p>「こどもたちが孤立・不安を感じることはない工夫」：児童・生徒が登校できないために生じがちな孤立・不安を感じることはないように工夫し、担任・学校への信頼を失わず、クラスとの繋がりを感じられるようにする。</p>	<p>■高等部</p> <p>2) 生徒に関して：</p> <p>オンライン授業は最小限にし、濃厚接触者などは当該生徒には学びの機会を保証すると共に、できるだけ対面の授業をした。突然出席停止となった生徒のために、自宅までノートや教材を届けたりしながら不便を補った。またオンラインの生徒を授業に巻き込むように心がけた。久しぶりで全校オンラインになった日には、「マスクを取った顔を見るのは久しぶり」と喜びの声も聞かれた。</p>	<p>■初中等部</p> <p>2) 児童・生徒に関して</p> <p>登下校の時間帯を学年ごとに変えて、密にならないように工夫しながら、通常登校、授業を行った。また、休み時間、掃除など密にならない各階ごとの時間調整を行い感染防止につなげた。</p> <p>校舎入口に担当教員が立ち、児童・生徒への朝の検温、手指消毒などの声掛けをし、継続して感染防止に努めた。</p> <p>予定していた体験学習は、感染リスクの可能性をできる限り排除すること（移動に際しては公共交通機関を利用せずにチャーター・バスで移動する。体験学習先は他の団体や一般利用者との同時時間帯の利用を避ける、等）で実施し、子どもたちの学びの意欲や好奇心を満たすことの継続性を心掛けた。</p>	<p>●時差登校、他</p> <p>登下校の時間をずらすなど、あらゆる面で密にならないような工夫をしてくれた。子どもたちも時間差の休み時間や入口の変更などに柔軟に対応していたように思います。</p> <p>●体験学習の工夫とクラスの繋がり</p> <p>体験学習も工夫した形で実施され、制限の多い中で、児童生徒にとって大きな楽しみだったと思う。出席停止となった生徒も担任やクラスの友達、そして、保護者の温かい気持ちを受け、より学校や友達の大切さを知り、強い繋がりが生まれた。先生方の優しい気遣いを感じた。</p> <p>●児童一人一人との繋がり</p> <p>コロナ以前から行われていることだと思いますが、登校時、一人ひとりと担任が教室の入口で目を合わせて挨拶して下さることが、先生との繋がりがだけでなく、クラスや学校との繋がりがや安心を感じる助けになっていると感じます。また、高等部のオンライン授業の実施により登校できない生徒の孤立や不安感が軽減されたのではないかと思います。</p>
<p>■全体の3)</p> <p>3) 保護者への対応についての評価</p> <p>「保護者との精神的な繋がりを失わないようにする」：教師・保護者相互間において丁寧で密な連絡を取り、保護者が学校に対し精神的に疎遠であると感じないように心掛ける。</p>	<p>■高等部</p> <p>クラスの会については、状況の厳しい時にはオンラインになりつつも予定通り行なえた。保護者面談は感染の落ち着いた秋に実施できた学年もある。上記保健チームの働きにより、情報を適宜お伝えすることができた。</p>	<p>■初中等部</p> <p>1) にあるように保護者との面談や電話連絡により、より密な連絡を心掛けた。緊急事態宣言下ではクラスの会などをONLINEで行うなどして補いをした。学級毎や学園全体に向けての速やかな情報発信システムを取り入れることで、細かな状況変化に対しても素早い対応が可能になった。</p> <p>クラスごとの健康アンケートを取り、児童生徒、家族の健康状態を知ることで、速やかな感染対策や授業体制をつくることができた。</p>	<p>●ONLINE クラスの会の開催</p> <p>クラスの会やはり対面が一番だが、オンラインで行なうことにより、通常参加できない人が参加できるなど、良い面もあった。</p> <p>・さくら連絡網が整備されたことで、こまめな連絡はとても助かります。夫婦間の情報共有も楽になりました。</p> <p>●行事の工夫と全体の連帯感</p> <p>クラス会や保護者の参加できる行事が減ったことは非常に残念なところもあったが、保護者同士の交流や児童生徒の発表を見ることができた大切さを痛感した。児童生徒にとっては保護者を入れないで、全学年がそろうことを優先させたことはよかった。少人数での参観の場を多く作ってくれたことで、学校と子どもたちとのつながりが感じられた。</p>
<p>■全体の4)</p> <p>4) その他</p> <p>シュタイナー教育はどのような厳しい環境・状況の中においても、理想を持ちつつ自分の持てる知恵と力で社会への有効的な働きかけができる人間を育てようとしている。私たちはアントロポソフィ（人智学）に基づいたものの見方や考え方を発信し（強制や押し付けを意味しない）、必要以上に不安を持ったりネガティブな方向に傾いたりしないようにしつつ、相互扶助の声掛けをする。（健康HOTLINEの設置もその一環の一つ）</p>	<p>■高等部</p> <p>シュタイナーの人間観と教育的知見を踏まえた養護教員、校医、元理事長の医師など、恵まれた体制で取り組むことができている。「感染対策は不要」と考える方もいれば「今の対策では不安」という方もおり、保護者の考えはさまざま。分断を深めないよう配慮しつつ、学園としての考えを伝えた。身体だけではなく、コロナ禍のもたらす社会的、感情的、精神的な影響についても総合的に見ようとしており、今後も継続したい。</p>	<p>■初中等部</p> <p>保健チームからのおたより、ホットラインを継続して行い、不明な点や不安なことに関しても保護者がいつでも相談できるようにした。</p> <p>HPでの発信：ワクチンについては専門医からの見解を保護者にもお便りで共有することができた。学内会（総会）で保健チームから保護者に向けた丁寧な説明も行った。</p> <p>相模原市の福祉活動センターが主催する「コロナを越えてそれぞれの団体が共同で千羽鶴の作品を作ろう」という呼びかけに応え、全校で児童・生徒が鶴を折って催しに参加した。</p>	<p>●不安を回避する情報提供について</p> <p>保健チームからのお便りはとても参考になった。何でも相談できる態勢がよかった。子どもの状況によって、個別に対応していただけたのも、普段からよく子どもを知ってもらっているという安心感が持てた。児童生徒に何とかして行事、学びをさせてあげたいという学校・教員会の熱い想いを感じた。</p> <p>・保健チームのホットラインへ相談できることが折に触れてアナウンスされていることはとても良いことだと思います。</p>

【2. シュタイナー学園教育目標に対する学校評価】

高等部学校評価教育目標	教員による自己評価	学校関係者評価
・高等部/学校評価教育目標	コロナ禍で伸び伸びと学校活動が行えなくなって丸2年、一時的に落ち着いていた1学期後半と2学期に、大きな学校行事である卒業演劇、そして生	●非常時における生徒の在り方

<p>■①自ら考え、自ら感じ、自らの意志で行動できる人、どんな時代でも自分らしく歩んでいける「生きる力」を持った人を育てます。</p> <p>(1) 初中等部で育まれてきた感性を信頼し、感情に流されない思考力を持ち、自らの考えを自らの意志で実現できる人を育てる。</p> <p>(2) 現在・過去・未来の社会の興味関心を持ち、自律して学び続ける力を育てる。</p> <p>(3) 教職員、保護者、地域の方々が調和的・協力的に活動できる場を作る。</p> <p>(4) 生徒の多様性を尊重し、一人一人の個性を生かすために、教師は教育芸術の実践を目指す。</p>	<p>徒が主体的に計画実行する高等部フェス、卒業プロジェクトの発表を行った。大勢の前で発表すること、自分でテーマを決めて調べ、掘り下げて発表することは、この学園の教育の集大成でもあり、一人一人が真剣に向き合い、苦労しながら、大きな学びを得ていると感じられた。また実習では、航海実習、農業実習、職業実習、福祉実習とそれぞれの学年で必要な実習を行い、一人一人の生徒が実習を通して、社会の様々な人に出会い、教室の中だけでは得られない貴重な体験をすることができた。3 学期には、イングリッシュデーでの英語劇の発表や、卒業オイリュトミー公演など、行事が控えているが、これらの学びを発表する機会が、普段の学びを支え、学びの励みにもなっていると感じる。今後も学びにおけるインプットと、行事などでのアウトプットが、お互いにより形で作用するよう継続していきたい。</p>	<p>12 年生劇、卒業プロジェクトをみて、コロナで制限が多い中でも 1 人 1 人が自分と向き合い、内面を掘り下げ、伸び伸びと発表する姿に、この教育の可能性を感じた。また、多感な時期に生徒たちを導く教職員に感謝し、頼りにしている。</p>
<p>■①自ら考え、自ら感じ、自らの意志で行動できる人、どんな時代でも自分らしく歩んでいける「生きる力」を持った人を育てます。</p> <p>(1) 初中等部で育まれてきた感性を信頼し、感情に流されない思考力を持ち、自らの考えを自らの意志で実現できる人を育てる。</p>	<p>新型コロナウイルスによる様々な制約を受けながらも、生徒たちはできることに精一杯取り組み、その中に楽しみを見出すこともできた。慣れないオンライン授業にも前向きに向かった。絶えず変容する状況の中、感情に流されず安定して思考を育てることができた。</p>	
<p>(2) 現在・過去・未来の社会の興味関心を持ち、自律して学び続ける力を育てる。</p>	<p>大人にとっても初めて遭遇する事態。先の見えない状況にありながらも、大きく動揺することなく学びに向かった。12 年生卒業旅行が中止になったり、様々な発表の形式が変更したりと、不測の事態にその都度対応しながらも、大きく動揺することなく自分の未来を見据え、進路の準備をも進めることができた。</p>	
<p>(3) 教職員、保護者、地域の方々が調和的・協力的に活動できる場を作る。</p>	<p>コロナ禍により、この領域には困難があった。保護者の方々に学習の成果を見ていただく機会も減り、地域の方との運動会やお祭りでの交流もなかった。その分、道路の落ち葉清掃や、すれ違う時のご挨拶など、わずかな機会を捉えて暖かい気持ちを通わせることを意識していた。</p> <p>授業以外での校舎間移動に制限を儲けたことにより、教職員間のコミュニケーションの機会は減らざるを得なかった。前年度に導入した常勤への PC 配布に助けられ、オンラインでの会議を取り入れることができた。新しい技術によって交流が保てたことはよかった。</p>	<p>●生徒の学びの様子</p> <p>保護者参観の中止は仕方がないとはいえ非常に残念ではありますが、ですがこのような状況においても子どもたちは伸び伸びと過ごしているようですので、親は、今は辛抱の時期と捉え、状況改善のときまで待つのみですね。</p>
<p>(4) 生徒の多様性を尊重し、一人一人の個性を生かすために、教師は教育芸術の実践を目指す。</p>	<p>引き続き性教育に力を入れた一年だった。性と命の問題、ジェンダーの問題などを様々な教科や特別活動の機会に学びを提供することができた。</p> <p>一方メディアの利用についても、一方的な禁止ではなく状況を様々な視点から見た上で、どのように付き合っていくかを考えるため、生徒が自分たちでテーマを決め、分科会にわかれて議論するシンポジウムを行なった。</p>	<p>●性教育について</p> <p>ジェンダーの問題を映像も使った学びは分かりやすく、メディアを好む世代に入りやすかった。問題を明るくとらえ、現実のものとして受け入れられたのではないかと思います。</p>
<p>初中等部学校評価教育目標</p>	<p>教師会自己評価総括</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>□初中等部：12 年間の教育交流・道徳・全体交換</p> <p>①12 年間一貫教育を行い、児童生徒が安心して学べる大きな家族のような学校</p> <p>(1) 12 年間を通して深い人間愛を培う。</p> <p>①全教員が全児童・生徒の顔と名前、及び学校での様子を認知して日々接し、一人一人の個性を尊重し伸ばす。</p> <p>②12 年間の各エポック科目、専科授業を通して自然で温かさを伴う道徳教育・性教育の在り方を意識し、教育する。</p> <p>③12 年間の一貫教育を更に筋の通った骨太のものにするために、教員が互いに学年・校種を超えた繋がりを強くし、互いの教育内容を熟知する。</p>	<p>【初中等部全体総括/学校評価教育目標 (1)】</p> <p>学年を超えた交流を通して相互関係を築きたいという目標は、収束が見えないコロナ感染が続く中、全校生徒が集う集会を行えないなどの障害が少なくなかったが、小さな集いやクラス同士の交流、小さな学びの発表会等に切り替えて、友好的な交流を行うことができた。全体的な集いが出来なかった分、普段の校種を超えた交流が如何にこの学校で大きな要素となっているかを再認識した。また、困難さ故に工夫した代替案から新たな良い企画が生まれたりもした。例えば、高等部主催の学園祭に初中等部が参加できなくなった代わりに 5, 6, 7, 8 年生主催の「名倉祭」を催し、低学年の子どもたちに楽しみ環境と催しを行うことが出来た。また劇の発表においては 1 回の参加人数を減らすかわりに発表の回数を増やすなど工夫をして、できるだけ全校の子どもたち・保護者・教員が観劇できるようにした。</p>	<p>●学年を超えた交流</p> <p>コロナ禍に於いても、学年を超えた関係は変わらず継続できて良かった。名倉祭は、5.6.7.8 年生にとって新しい試みの良い機会となった。試行錯誤の面もあったと思うが、クラス全体や学年を超えた確かな繋がりになったと感じる。</p> <p>・高等部へのあこがれがあるので、全体が一度に集うことは少なくなっても、他学年との交流の機会があったのは、子どもがとても楽しみにしていました</p> <p>・高等部に姉がいるので、家庭ではお互いの授業や祝祭などのことを日々やりとりしており、兄弟のいない家庭よりは校種を超えた様子は分かってはいます。3 年生の弟が秋の祝祭で「おろち劇」を高等部で披露できたことは、姉たちは楽しみにしていたので、本当に良かったです。ありがとうございました。</p> <p>●小さな学校、大きな家族</p> <p>一人一人の生徒を全教職員が知っていてくれるというのは、とても安心感がある。生徒同士も他学年の交流を通してほぼ全生徒を把握していると思う。形を変えたり、規模を小さくして実施</p>

		<p>した行事でも生徒には行うことができたという気持ちを持てたことがよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が子の授業をうけもってくださっている先生方について、学級通信でご紹介いただいたのが、子どもの話を聞く時に助けになりました。直接お会いできたら最高だけど、せめても、ともおもしろい感じがたいです。 ・学校の教職員皆さんで子どもを見守り成長に力を添えて下さること感謝しています。 ・学級担任以外の先生からも学校での息子のちょっとしたエピソードを聞けることはとても嬉しく思います。 ・学年を超えた交流はとても良い取り組みだと思います。 ・子どもの様子から、小さな集いやクラス同士の交流は大きな集いに比べてより親密感を感じるとともに、よさをじっくりと味わうことが出来ていたように感じました。 ・縦割りグループでの運動会もいつもとは違った交流をもててよかったようです。
<p>□初中等部：芸術教育</p> <p>(2)もっと美しく、もっと感動的な教育芸術を！</p> <p>①シュタイナー教育においては、詩・歌・楽器演奏・絵を描く等の芸術を多用するが、それらを含めて授業が有機的なものとなり、子どもたちに学びの働きかけが出来ているかどうかを教師たちが互いに研究し合い、切磋琢磨し合う。</p>	<p>【初中等部全体総括/学校評価教育目標(2)】</p> <p>教員間においては、昨年以上に全校種の教員対象の研修を意図的に増やし、教育の質向上を目指すと共に、互いの連帯感の強化を心掛けた。</p> <p>芸術が学園教育の中で重要な要素となっている中、大きな声で歌を歌うことの危険性などコロナ感染による幾つかの規制は、教育活動において無視できない足かせとなった。しかしながら、実施が可能な範囲で行う芸術がもたらす楽しさや喜びは、規制が多い学校生活の中で子どもへの大きな癒しの要素となっていた。例えばリズムの時間に体育館や校庭の広い空間で大きく動く、大声で詩を唱えるなどの取り組みをした学年もあった。笛は音を出さずに指だけうごかし音楽を心の耳で聞く練習は、コロナ感染防止の工夫の中で逆により取り組みとなった。</p>	<p>●芸術教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も絵や楽器などそれぞれの得意、不得意なものもあっても、表現するものは素晴らしく、苦手意識がない。また、他人の作ったものや表現を尊重し、感じ取ろうとする姿勢が出来ている。オリンピックでは、勝ち負けではなく、身体の美しさ、みんなで競技する楽しさを児童も保護者も感じた。 ・オイリュトミーの時の音楽や、中国語の歌、英語の詩など、家庭ではいつも息子の歌う声が響いています。 「音楽を心の耳で聞く練習」とありますが、まさにその通りで、しっかりと受け取っています。親がその歌や詩を聞きながら、癒されています。 ・詩や歌、劇など芸術的要素が学習の様々な時間に取り入れられていることは、子どもたちの学びにおいてとてもよいことだと思います。全体としてまとまりのある学びの働きかけが出来ていると感じます。
<p>□初中等部：日本伝統・アジア文化、他</p> <p>伝統文化・アジアの感性に根付いた学びを通して、世界へ向かう</p> <p>①日本におけるシュタイナー教育を鑑み、アジアや日本の伝統文化を意識的に体験する教育を目指し、それらも土台のひとつとして自己啓発していける人間を育てる。</p>	<p>【初中等部全体総括/教育目標(3)】</p> <p>シュタイナー教育では世界に通用する子どもを育てる目標がある中で、生まれた土地・国の習慣や文化こそがその基盤になると考える。その意味で、学園は今までも継続している日本伝統文化の学びはそれなりに根付きつつ、学園の大きな特色になっている。今年に関しては今までの学びを大切に継続しつつも、昨年以上に新しい日本文化的要素を積極的に授業の中に取り入れた。また、新しい試みも今後継続していきたい方向で教員間の教育的一致がある。</p> <p>継続しているものはそこで満足するのではなく、更なる深さをいかに取り入れられるか。新しいものに関しては、子どもの成長と興味・関心を鑑みて取り入れるべき可能性となるものを考えていきたい。</p> <p>継続内容：</p> <p>奈良旅行/般若心経及び写経/米作り/茶道体験/狂言/外郎売り/紙漉き/琵琶法師「平家物語」体験/味噌作り/梅干し作り/節分/伝統お正月遊び体験/方言/染め体験/雛祭り/七夕/相撲/生け花/鍛冶屋体験/精進料理/習字/水墨画/醤油作り</p> <p>□新たな内容：琴鑑賞会/火鉢体験/東北鬼剣舞/養蚕/七夕句会</p> <p>□過去に扱った内容：和太鼓/和裁/炭焼き体験/餅つき/</p>	<p>●日本文化のある教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制約のある中、先生方が工夫して取り組まれていることに感謝します。取り組みについて他の先生と共有されることはよいことだと思いますが、研修が多くなったり時間が長くなったりして先生方に無理がかかることのないよう、できる範囲で取り組んでいただけたらと思います。 ・日本にある学校として、今生活し学んでいる場所として、日本の伝統文化を大切に、学びの中に積極的に取り入れることは、とてもよいことだと思います。新しい試みは準備などに大きな労力を伴うと思いますが、子どもたちのよりよい学びのために準備していただきありがとうございます。 ・該当学年で体験するものだけでなく、毎年行う体験や行事があることは、めぐる季節の流れを感じるとともに子どもが自分で成長を感じたり、繰り返すことで工夫や腕が上がったりして、自己啓発していける人に育っていていると感じます。 ・校舎の入口に節分イワシがあったり、事務局前に雛飾りが置かれたり、子どもたちが目にする場所にさりげなく日本の文化に触れるものが飾られることも素敵だなと感じます。準備してくださっている方に感謝します。